

主要登場人物

ラインハルト・フォン・ローエングラム

(Reinard Herzog von Rheingram)

金髪と蒼氷色の瞳を持つ貴公子。戦争の天才。銀河英雄伝説の主人公の一人。元帥。ローエングラム公爵。

ジークフリート・キルヒアイス

(Siegfried Kirchens)

ラインハルトの腹心であり親友。ルビーを溶かして染めたような赤毛と感じの良い青い目の長身の若者。上級大将。ガイェスブルグでアンスバッハによるラインハルト暗殺を阻止するが、その際に重傷を負い、病床に伏す身となる。上級大将。

アンネローゼ・フォン・グリューネワルト

(Annerose Graf in von Gruenwald)

ラインハルトの姉。一五歳の時、時の皇帝フリードリヒ四世の後宮に納められ、グリューネワルト伯爵夫人となる。

フリードリヒ四世

(Friedrich)

銀河帝国第三六代の皇帝で故人。アンネローゼを後宮に入れる。まだ老人と呼ばれるべき年齢でないにもかかわらず、極めて困憊した老人の外見を持つ。本当に暗愚だったのか、賢帝になり得たけれども現状を諦観して無能皇帝の外見を決め込んだのか、ちょっと分からないところのある皇帝。ただ、ラインハルトの登極に、この皇帝がある程度以上の働きをしたことは確かだと思われる。故人。

リヒテンラーデ公

(Klaus Herzog von Lichtenrade)

老巧な宮廷政治家。國務尚書として、閣僚の首座を務める。険しい表情の老人。この人も有力貴族の出身だと思つが、経歴だけを見ると官僚出身者と受け取れないこともない。ある程度の門地を持った貴族出身で、上級官僚の道を歩いた人なんだろう。ただし、バーネミュンデ伯爵夫人にはけっこうひどい言われようをしているから、頑張って上に阿(あ)つていた時期もあったのだろう。結局、オーバーシュタインによって原作通りに現世からの退場を強いられる。

アンスバッハ

(Ansbach)

重要な役割を担った割に、フルネームももらえていない可哀相な人物。原作では准将の地位を持った軍人らしく書かれているが、ここではブラウンシュヴアイク公の家宰のような役割を持った人物として扱った。当主を支える上で、相当以上に賢明な人物が必要と考えたと、彼のような人間がブラウンシュヴアイク公家の内政を采配していたとしか考えにくい。

ヒルデガルト・フォン・マリーンドルフ

(Hildegard von Mariendorf / Frau ein Mariendorf)

マリーンドルフ伯爵家の一人娘。伯爵令嬢マリーンドルフ。通称ヒルダ。短くした、くすんだ金色の髪とブルー・グリーンの生き生きした瞳の、美貌の少年を思わせる女性。ラインハルトの一歳年下の二一歳。リップシュタット戦役に先立ってラインハルト陣営への協力を申し入れ、ラインハルトの知遇を得る。帝国宰相首席秘書官として、ラインハルトを補佐するとともに、キルヒアイス不在の間のラインハ

ルトのよき相談相手となる。本作では、少女時代にゲルタとの親交があったことになっている(『星の翼』参照)。

アルツール・フォン・シュトライト

(Arthur von Streit)

帝国軍少将にして、ラインハルトの首席副官。原作同様に恩人の窮地を救うために出頭し、そのままラインハルトの副官となる。本作ではラインハルト専用車のドライバークや、ライフルの狙撃手など、多彩な才能の持ち主であることを見せている。

テオドール・フォン・リュッケ

(Theodor von Lucke)

帝国軍大尉。ラインハルトの次席副官。残念ながら本作では余り活躍の機会はないようだ。

ウルリッヒ・ケスラー

(Ulrich Kessler)

大将。憲兵總監・帝都防衛司令官。皇帝誘拐の企みを探知し、新無憂宮の警備に当たる。

ルパート・ケッセルリンク

(Rupert Kesselring)

フェザーン自治領主補佐官。端正だが、乾ききった印象の若者。自治領主ルビンスキーの命により、皇帝誘拐を企図する。

ニコラス・ボルテック

(Nicolaus Bortek)

在帝国フェザーン高等弁務官。ルビンスキーからの意を受けてラインハルトとコンタクトするが……

本編オリジナルキャラクター紹介

ヴィンフリート・リーフェンシュタール・フォン・シュミットバウアー

(Winfried Retschke Vagel von Schmittbau)

帝国軍中将。子爵。育ちのいい貴族の坊ちゃん雰囲気。青年。ヨハン・クレメンツ・フォン・シュミットバウアーの士官学校時代の同期生で、優等生。



ル伯爵家の三男。コルネリア・ゲルトルーデと結婚し、シュミットバウアー子爵を名乗る。リップシュタット戦役末期、ラインハルト打倒を目指す、インゼルインフルーシュ星域会戦でキルヒアイスに敗れ戦死する。

コルネリア・ゲルトルーデ・フォン・シュミットバウアー

(Cornelia Gertrude Vagel von Schmittbau)



ヨハン・クレメンツの妹。ヴィンフリートの妻にして、シュミットバウアー子爵家の当主として、シュミットバウアー子爵夫人を名乗る。愛称はゲルタ。アン

ネローゼと同年。エルフを思わせる端正な細面、赤みの強い金茶色の巻き毛、エメラルド・グリーンの瞳、誇り高い意思的な容貌、兄譲りの長身の女性外見に似ず、白兵戦の達人。



ヨハン・クレメンツ・フォン・シュミットバウアー

(Johan Kartz von Schmittbau)

帝国軍准将。故人。コルネリア・ゲルトルーデの兄。コルネリア・ゲルトルーデよりも九歳年上。シュミットバウアー男爵家の長男。一時期ラインハルトの指揮下に入り、ヴィンフリートを同盟領から救出する作戦に従事、ラインハルトの危急を救ったこともある。ラインハルトの野心を見抜き、暗殺を試みたが、キルヒアイスに阻止され、射殺された。

『大佐』

(Ost)

ゲルタの白兵戦技の師。自前の傭兵団を持っており、二〇名余りの熟練傭兵を擁する。ゲルタが一〇代前半の少女時代からのつき合いで、かつては帝国軍の士官であつたらしい。ゲルタは彼を介して裏社会ともコンタクトを取っていたとおぼしい。フェザーンではサンダースと名乗っている。

マクシミリアン・ホフマン

(Maxilian Hoffman)

ブラウンシュヴァイク公家のアンスバッハに対応する、リップテンハイム侯家の人物。通称、マックス・

ホフマン。元帝国軍准将だが、軍に見切りをつけてリップテンハイム侯家の家宰となる道を選ぶ。彼の採用後、リップテンハイム侯家の勢威が大きく騰がったと言われる。

ロベルト・クルツバッハ

(Robert "Spiegel" Krutzbach)

ブラウンシュヴァイク公軍中佐。あだなが“シュピールゲル”。正規軍では士官になれなかつたためにブラウンシュヴァイク公の私兵に投じ、公軍の重鎮となっている。ヴィンフリートの参謀長としてヴァンフリート星系へ赴いたこともある。